

製造装置・部材関連

インタビュー

石原薬品(株)
代表取締役社長

時澤 元一氏



石原薬品(株) (神戸市兵庫区西柳原町5-26、☎078-681-4801)は、でも、はんだめっき液では界面化学を中核技術に3つの分野(電子関連分野、自動車用部品分野、工業薬品)

事していた。また近年は、竹森莞爾前社長(現会長)とともに事業の拡大を進め、安定的な業績の成長を遂げ

ケル超微粉やエンプラ、マシナルセラミック製品などを扱う「電子材料事業」で構成されており、全社売

池、ディスプレイ分野などでの展開を見込む。——生産体制について。時澤 電子関連分野の製品は、一部を除き滋賀工場(滋賀県高島市)で生産している。2カ所目の拠点として神戸工場(神戸市西区)が今年4月に竣工した。投資額は約16億円。現在は、銅ナノインクをはじめとした金属ナノ粒子分野の生産・開発拠点として位置づけているが、BCP(事業継続計画)の観点から、将来的には滋賀工場の生産品を神戸工場でも手がけることも検討する。——今後の方針を。時澤 まずはI-T分野で、電子関連分野の製品をさらに拡販していきたいと考えている。そのためにも、既存の表面処理剤の販売を伸ばすとともに、先に述べた金属ナノ粒子分野を早期に事業化していくことが私に課せられたテーマだと考えている。そして、社員のスキルアップのための人材教育にもこれまで以上に力を入れていきたい。

ウエハー用バンプレッキ液が好調

金属ナノ粒子を早期事業化へ

また、6月から新しい経営体制を発足させている。新社長に就任した時澤元一氏に話を伺った。

——ご略歴と新社長就任の経緯を。

時澤 1967年の入社からこれまで技術開発部門に一貫して従

業のうちに電子関連分野の詳細を。

時澤 電子関連分野は、スズおよびスズ合金のめっき液をはじめとした金属表

面処理剤や化成処理液自動管理装置などを扱う「金属表面処理剤及び機器等事業」と、セラミックコンデンサー用ニッ

一般的にこの合金めっきは安定性に難があるとされている。しかし、独自の技術を用いることで、当社はその安定性を高めることに成功。また、バンプレッキの高さが均一で、実装後の接合信頼性に優れ、品質面で高い評価を受けている。

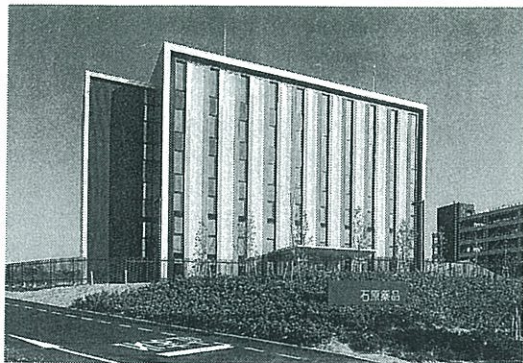
現在、研究開発で強化されている分野などは。時澤 金属ナノ粒子、なかでも銅ナノインクの研究

開発を進めている。これまで銅ナノインクは酸化しやすいという問題があり、その解決に真空法をはじめとしたあらゆる方法が試されてきた。そのなかで当社は、室温大気雰囲気下において1秒以下の短時間で光焼成(フォトリソタリング)する方法を確立し、問題解決に成功した。現在サンプル出荷を行っており、用途はFPCやRFID、太陽電

——貴社の製品が評価されている点は。

——今後の方針を。

4月に竣工した神戸工場



(聞き手・浮島哲志記者)